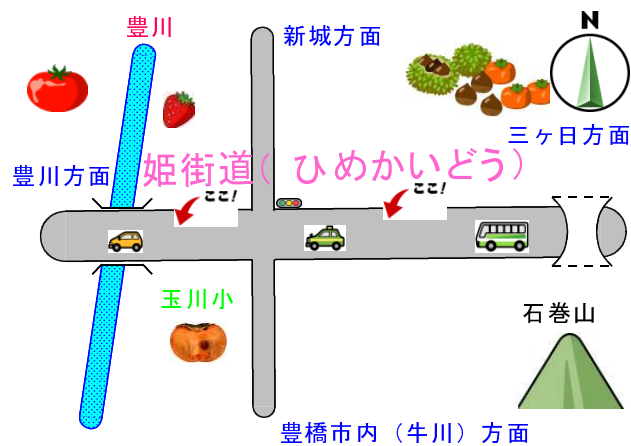


姫街道

本坂道（ほんざかどう）を姫街道（ひめかいどう）ともいう。実は一年に一度あるかなしのことであったが、この草深い山道のいななか道を、美しく着飾った女性の行列が通って行く風景は、村人の眼を見張らせるに充分であった。

おそらくこうしたことから、姫街道（ひめかいどう）の名前がついたのであろう。すでに本坂道（ほんざかどう）は東海道の旧街道として“ひね街道”の名で呼ばれ、それが“ひね”と“姫（ひめ）”とがいったちした。しかも女性の美しい行列風景が強く印象づけられて、「姫街道」



（ひめかいどう）の名前が今も言い伝えられていると思われる。

宝永四年（1722）までの15年間にわたる『本坂越御用通船人足覚帳』にもとづき、女性の通行がわずか1回であったことを理由に、姫街道の呼び名が当たらずとする説もある。



大地震による交通激増

宝永四年（1707）10月4日、東海道をおそった大地震・高津浪は、浜名湖口今切に大打撃をあたえ、新居・舞阪間の船の路は壊滅し渡ることができなくなった。新居宿も家屋が多く流され、破壊された。東海道を旅する人々は、危険をさけて本坂道を通る人々が増えたといわれる。 参考資料『豊橋市史』